

図書館だより No.2

令和 5 年 5 月
大洲中学校図書館

ゴールデンウィークがあけ、学校生活がいよいよ本格的となる5月を迎えました。

大洲中のみなさん、新しい環境にはもう慣れましたか。5月は大洲中の一大イベント、体育祭があります。今年は去年よりも暑さが早目に来ていますよね。暑さ対策を万全にして楽しんでくださいね。



さてみなさん、“目には青葉 山ほととぎす 初鰹”という俳句をご存知ですか？江戸時代中期の俳人の山口素堂が詠んだ俳句で、目にも鮮やかな「青葉」、美しい鳴き声の「ほととぎす」、食べておいしい「初鰹」と、春から夏にかけ、江戸の人々が最も好んだものを詠んだもので、その季節の爽やかさを表しています。この句が一躍有名となり、江戸っ子の間で初夏に出回る「初鰹」を食べることが粋の証となったそうです。ちなみに、「青葉」も「ほととぎす」も「初鰹」も全て夏の季語で、初夏の爽やかさを、目・耳・口という五感で伝えようとした句と言えます。季語を複数使う季重なりは、俳句の世界では本来避けるべきこととされていますが、この句にはナント3つもつかわれています。そんなところが当時の江戸っ子には好評だったのかも知れませんね。

えっ、ちょっと待って！まだ5月なのにどうして夏の話なの？…と不思議に思った人もいますが、連休中の5月6日は暦の上では「立夏」と呼ばれる日で、夏の始まりの日なんです。

この日を境に夏の気配が感じられ、陽気も増していきます。この日から8月8日の“立秋”の前日までがいわゆる“夏”となるわけです。実は私は鰹が大好きで、鰹のタタキに塩とブラックペッパーを振り、その上からオリーブオイルをかけて食べるのにハマっているんですよね。勿論、ネギ、ショウガ、ニンニクに醤油をかけて食べるのもいいですね。それで、この話題となってしまいました。

公私混同ですみません m()m

この文章を書くにあたっては、図書館の“短歌・俳句 季語辞典”（ポプラ社）と“まんが俳句なんでも辞典”（金の星社）を参考資料とさせて頂きました。

辞典は、読み始めるとなんだか止まらなくなってしまうんですよね。

楽しいと感じられる一冊です。



『第69回青少年読書感想文全国コンクール』課題図書決定

今回の課題図書は

「スクラッチ」（歌代朔 作）

「アップステージ シャイなわたしが舞台上に立つまで」（ダイアナ・ハーモン・アシャー 作）

「人がつくった川・荒川 水害からいのちを守り、暮らしを豊かにする」（長谷川 敦 作）

入庫予定は5月18日です。入庫し次第ご連絡いたしますね。

また、寄贈本として「言いかえ図鑑」（大野 萌子）と「三千元の使いかた」（原田 ひ香）を配架いたしました。「三千元の使いかた」は今年早々にフジテレビ系列で始まったテレビドラマの原作で、人生に不可欠なお金の悩みを、個性溢れる登場人物の一人ひとりがその胸のうちの語りゆく物語です。

「言いかえ図鑑」は大人として身につけておきたい言葉づかいが身につくかも知れませんよ。

それでは、今月もたくさん図書館に遊びに来てね〜っ(^_^)/